川口の技キラリ・安行のオープンガーデン

植木の産地として400年近い歴史を持つ安行で、平成22年(2010年)10月、初めてオープンガーデンが催されました。

造園、生産、販売に携わる地元企業をはじめ、一般、史跡、公共施設など66か所が参加。開催中は東川口、戸塚安行の両駅も植木がしつらえられ、シンプルな一角に華やぎをもたらしました。

ねらいは地場産業の育成と、観光誘致のきっかけ作り。安行らしく「プロの技」が施された庭が売り物です。参加箇所によって見せ方のスタイルはさまざま。来園者の質問に答えたり、お茶のおもてなしをしたところもあり、盛況でした。

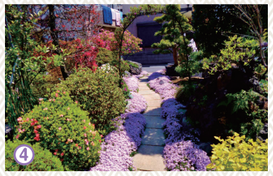
オープンガーデンは今後も定期的に開催され、年2回、春と秋に行われます。また、一部の参加箇所では、通年で見学可能なところもあります。軒先などに出ている看板が目印。森林浴を楽しみつつ、庭づくりのコツを教わりに、安行を訪ねてみませんか。

華やかなりし、安行の庭(オープンガーデン)

①

②

③


④

プロの技が光る!安行式オープンガーデン

安行地区(9、10コース)では、植木・造園業者を中心としたオープンガーデンが公開されています。(約33か所) 詳細は、川口市造園業協会ホームページをご確認ください。ホームページ URL:https://www.kawazoukyo.jp/business/cooperate.html

川口市周辺アクセス図

主要駅から戸塚安行駅までの所要時間
- 東京駅から約49分
- 池袋駅から約48分
- 大宮駅から約42分

川口市経済部産業振興課
〒332-8601 川口青木2-1-1
電話:048-259-9018 FAX:048-258-1161

2023.12

安行・峯コース

花と緑と民間伝承　遠くに見える東京スカイツリー

SR戸塚安行駅から徒歩約20分。植木の里の中心部・川口緑化センター樹里安が出発地です。いつも花の絶えない安行、夏は満開のサルスベリが見られます。生産緑地の植木をながめつつ、住民の方々の手で整備されたふるさとの森へ。希少なイチリンソウは、人びとに見守られながら徐々に自生地を広げていきました。県道脇の小さな広場では、伝統行事「安行原の蛇造り」のワラで編んだ蛇が見られます。普通の暮らしに伝承が息づく。首都圏であることを忘れそうになるのどかさですが、高台の道で視界が広がった瞬間、東京スカイツリーが見えました。

A-2 川口緑化センター(樹里安(じゅりあん))

植木の里・安行のPR施設として平成8年(1996年)にオープン。道の駅「川口・あんぎょう」を併設し、1階には植木直売所と情報コーナー、2階には資料展示やレストランなどがあります。道の駅と植木の展示場がひとつになった施設として注目されます。

B-2 密蔵院(みつぞういん)

創建は不明ですが再建は文明元年(1469年)といわれ、本尊の地蔵菩薩は平将門が肌身離さず持っていた念持仏と伝えられています。武州川口七福神のひとつ、左甚五郎の作と伝えられる大黒天がまつられています。参道の安行桜は、春のお彼岸には満開を迎えます。

C-2 安行原自然の森(あんぎょうはら)

斜面地にある自然林を生かした広場です。密蔵院のすぐ近くにあり、斜面林と低地を合わせて約1.7ヘクタールの広さを誇ります。敷地内は散策道が整備され、さまざまな植物が植えられています。とくに4月上旬に咲くヤマブキなど、春～初夏の散策がおすすめ。

C-2 新郷貝塚(しんごう)

縄文時代後期の大規模貝塚。原形をとどめている数少ない遺跡で、東西120メートル、南北150メートルが馬蹄形に広がり、一部が新郷若宮公園となっています。貝塚は1メートル以上たい積している部分もあり、竪穴住居跡や縄文人の骨が見つかっています。県指定史跡。

B-2 イチリンソウ自生地

県の準絶滅危惧種とされているイチリンソウが自生していることがわかったのは平成7年。県南東部の貴重な自生地として、平成14年(2002年)に市の天然記念物に指定されました。ゴミだらけの雑木林を美しい自然に戻した地元ボランティアの熱意が感じられます。

B-2 九重神社(ここのえ)

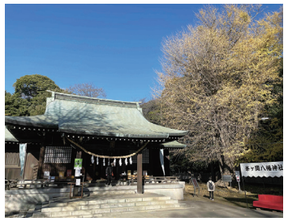
江戸時代中期に大宮氷川神社を勧請して創建したといわれています。明治時代に近隣9村の鎮守を含む32社を合祀し改称しました。樹齢500年以上のスダジイが2本あり、市の保存樹木に指定されています。裏手の御獄山は海抜32メートルと、安行一の高台です。

C-1 安行原の蛇造り(じゃづく)

五穀豊穣や無病息災などを願い、毎年5月24日に行われる行事です。住民(現在は保存会の方)たちがワラを編み、長さ10メートルの蛇を造ります。口には密蔵院のお札がつけられ、完成した蛇はご神木のケヤキ(現在は補助やぐらを併用)の上に1年間据えられます。起源は不詳ですが、亡くなった戦国武将たちの鎮魂が由来ともいわれています。市の無形民俗文化財に指定されています。

D-3 峯ヶ岡八幡神社(みねがおかはちまん)

弘仁8年(817年)慈覚大師の造立とも、天慶年間(938～947年)源経基が開いたとも伝えられます。ご神体の木造僧形八幡坐像は県の有形文化財。安行から草加市の一部にあたる足立郡谷古田領32村の総鎮守として栄えました。境内の木々は市指定天然記念物です。



安行植木いまむかし

一大産地・安行の誕生

安行植木の歴史は、一説によると400年近く前。関東郡代の伊奈家3代・忠治が、植木や花の栽培を奨励したのが始まりといわれています。明暦年間(1655～1657年)の江戸が焦土と化した「振袖火事」の後、安行産の苗木を江戸に出荷したところ人気を集め、植木の栽培が盛んになりました。

安行の植木産業が成功した理由は3つ。第一は自然環境です。安行台地は起伏が多く、場所によって生育環境もさまざま。それがかえって多様な種類の植木を育てるのに役立ちました。地下水の流れや関東ローム層の赤土が栽培に適していたことも挙げられます。

次に地理的条件。大消費地である江戸(東京)に近く、江戸の植木産地である巣鴨、駒込などの後方で供給地として栄えました。もうひとつは、安行の植木業者が積極的に需要開拓を進めたこと。カタログや通信販売の形で、大正期にはすでに国内だけでなく、アジアや欧州を相手に商売をしていました。こうして独自の流通過程を築くことで、「植木の産地=安行」というブランドを確立したのです。

緑の技術を世界へ

鋳物と並び川口の主要産業を担う安行植木。近年では宅地化が進み、従事者は減りつつありますが、植木の流通拠点として、今も重要な役割を果たしています。昭和57年(1982年)にはオランダで10年に一度行われる国際園芸博覧会「フロリアード」に初出展。参加5回目となる令和4年(2022年)には、国等と協力しながら日本庭園を制作・展示して、安行植木をPRしました。

ミミより情報 新鮮野菜に大注目!

川口緑化センター樹里安の敷地内に設けられた「JAさいたま農協安行農産物直売所」では、採れたての野菜が販売されいます。川口特産の浜防風が並ぶことも。

10:00～16:00、
年末年始休

スローライフの里をゆっくり歩こう

安行・峯コース

No.10

川口市マスコット「きゅぽらん」

川口市内観光ルートマップ

A-2 蛇造りレプリカ(川口緑化センター樹里安)

A-2 サルスベリ(安行公園)

B-2 ふるさとの森

D-3 峯ヶ岡八幡神社

B-2 密蔵院